

「生活者としての外国人」のための 日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラムA

1
NPO法人国際支援地球村

発表者 梶原美佳



報告内容

1. NPO法人国際支援地球村について

- 1-1 石巻市の外国人の状況
- 1-2 震災以前の活動内容
- 1-3 震災以降の活動内容
- 1-4 子供学習サポート
- 1-5 日本語学習の活動

2. 平成24年度ー地域日本語教育実践プログラムAー 「災害に対応できる日本語教室」について

- 2-1 事業のねらい
- 2-2 3つの取組

3. 教材作成

- 3-1 教材作成の紹介
- 3-2 作成した教材の紹介
- 3-3 学習教材作成についての成果と課題

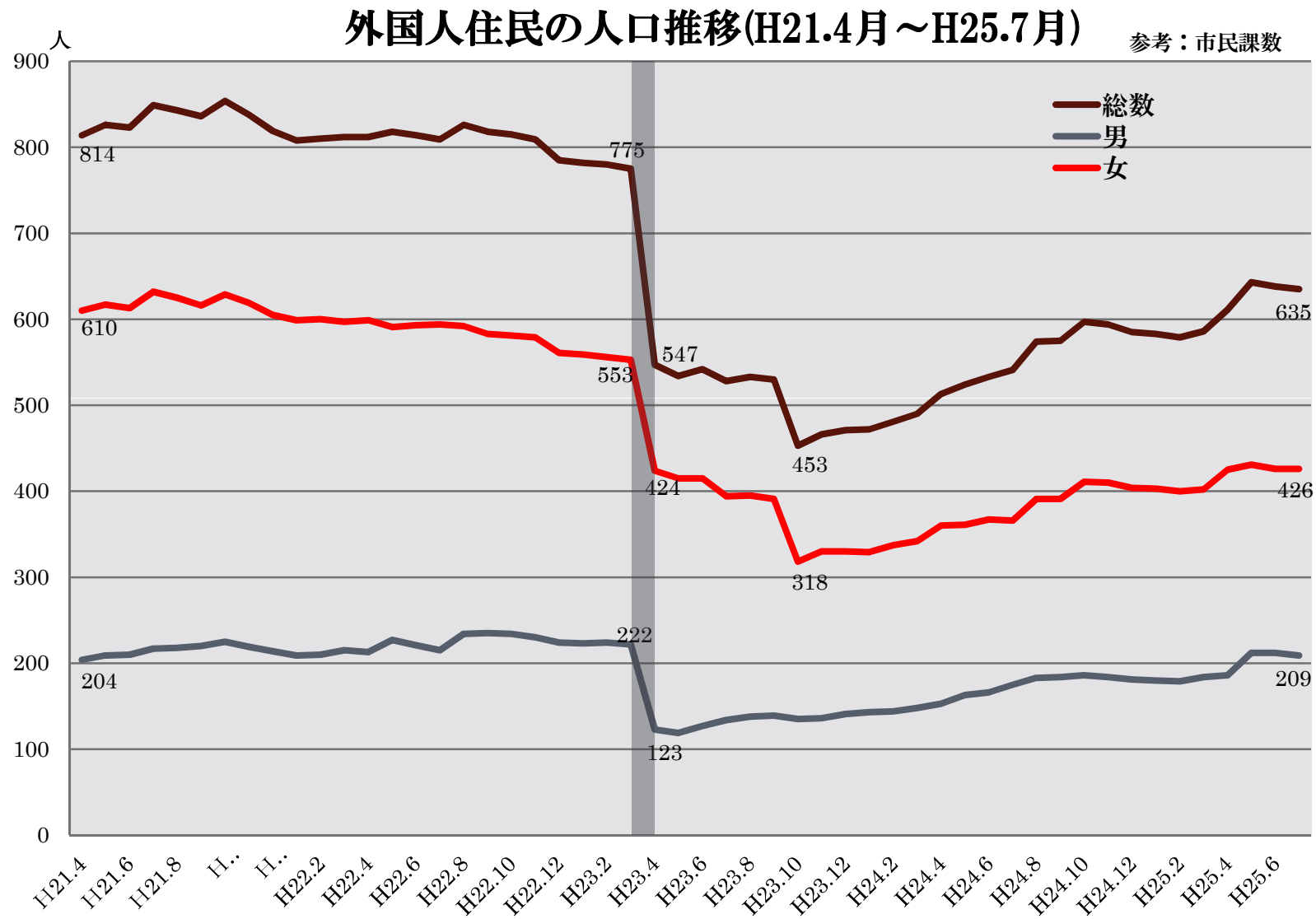
4. 平成24年度文化庁委託事業の成果と課題

5. 現在の取組

1. NPO法人国際支援地球村

- ・2009年、梶原美佳（韓国人・石巻在住）が、自らの経験をもとに、外国人支援のため当団体を設立。
- ・活動目的：日本に居住する外国人と市民に対して、生活支援や国際交流に関する事業を行い、地域社会に寄与することを目的としている。

1-1. 石巻市の外国人の状況



1-2. 震災以前の活動内容

多文化共生社会を目指した活動として、

- ・定住外国人と地域住民の交流活動
- ・世界の料理教室
- ・小中学校での国際理解のための
ボランティア活動

1-3. 震災以降の活動内容

外国人支援にとどまらず、

- ・地元の団体として被災者支援活動を実施
 - ・買い物代行ボランティア（2011年7月～9月 週2回）
 - ・「癒しの広場」（2011年9月 10回）
 - ・「元気声掛け運動」（2011年11月～2012年9月 週2回）
 - ・「楽しいお茶会」（2012年10月～2013年9月 週4回）

※日本人と定住外国人が一緒にボランティア活動を行い、日本語学習の実践の場を提供できた。

（●震災以降さまざまな外国人ボランティアが支援をしてくださったので、市民の外国人への見方が変わり、当団体の活動中は外国人に対する距離が縮まったように思う。）

活動写真①

買い物代行ボランティア



2011年7月の石巻の状況

癒しの広場
(マッサージ)



活動写真②



元気声掛け運動

楽しいお茶会



1-4. 子供学習サポート

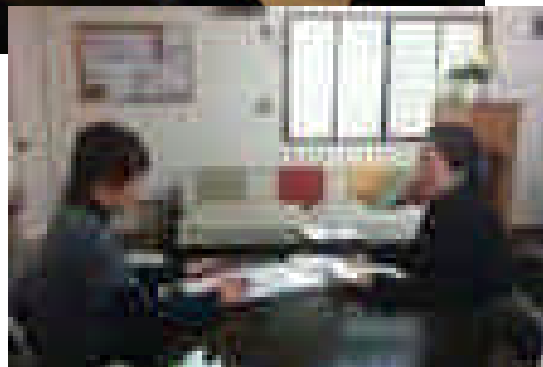
親が外国人の子供たちへの学習サポートを実施

2012年9月～2013年9月まで



震災後、親の母国に一時避難していた子供たちの学び漏れの解消を目的に、学習支援を行いました。

同時に、外国人の親へのサポートも行いました。



1-5. 日本語学習の活動

文化庁委託

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

○2011年 日本語教室設置運営

「パワフル日本語教室」

○2012年 地域日本語教育実践プログラムA

「災害に対応できる日本語教室」

○2013年 地域日本語教育実践プログラムB

「復興と共にすすめる日本語教育と

多文化共生社会の体制整備事業」

平成24年度「生活者としての外国人」の
ための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラムA

災害に対応できる日本語教室

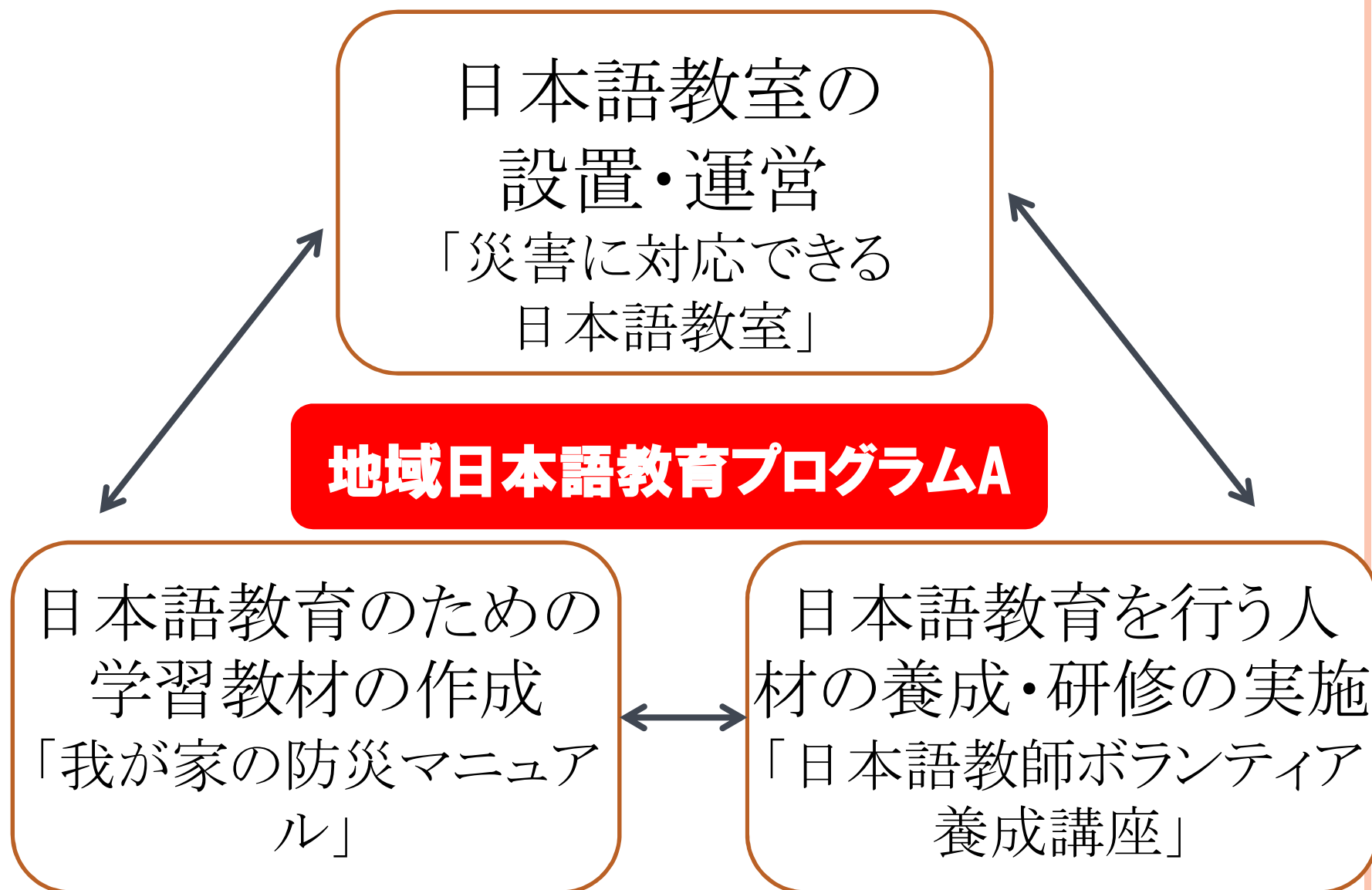
2-1. 事業のねらい

日常生活に必要な日本語の学習と、被災地での暮らしの情報提供及び2011年に経験した東日本大震災を教訓に**防災意識を高め、自らの生命財産を守るノウハウを学習**する。

同時に、地域に在住する外国人と帰国している外国人が再来日した際に、心のケアを含めた災害時に対応できる能力を身につけていただくための人材育成研修を実施する。

2-2.

3つの取組



災害に対応できる日本語教室

- 文化庁の標準的なカリキュラム案を活用。
- 地域の現状と学習者のレベルに合わせて手を加え、全64回実施。

選択した「生活上の行為の事例」

I .健康・安全に暮らす	02.安全を守る
IV.目的地に移動する	07.公共交通機関を利用する 08.自力で移動する
VIII.社会の一員となる	16.地域社会に参加する
X.情報を収集・発信する	21.通信する

市報や新聞を活用した被災地の情報提供



消防署と連携した普通救命講習会の実施



普通救命講習修了証を取得する



3-1. 作成した教材の紹介

教材作成のねらい

標準的なカリキュラム案を参考に、東日本大震災の経験をもとに、より『防災・災害』を意識した教材を作成することで、外国人住民の不安を軽減し、災害への備えを通して日本語学習の機会とする。

3-2.

教材紹介

作成した教材の紹介

(1)家の中で地震が起きたら・・/街中で地震がおきたら・・・
地震がおきたらどうしますか

(2)身元確認カードを作ろう/家族との連絡方法/家族のスケジュール

(3)サバイバルポーチを作ろう

(4)ライフラインが止まった時の生活の知恵

(5)防災ずきんをつくろう

(6)災害を乗り越えるための準備/災害を乗り越えるときの非常品リスト(1日間、3日間)/準備しておこう！大事な書類

(7)我が家の防災マニュアルを作ろう

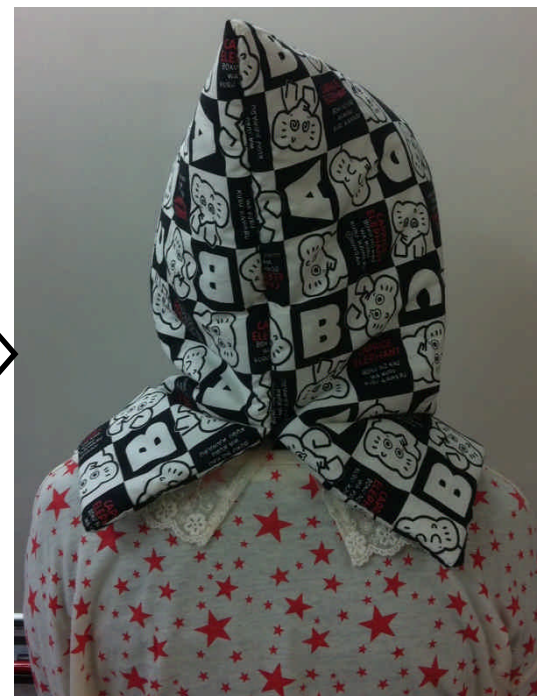
※上記七項目はすべて日本人と外国人が一緒に作成した。

3-2. 教材で使⽤した写真



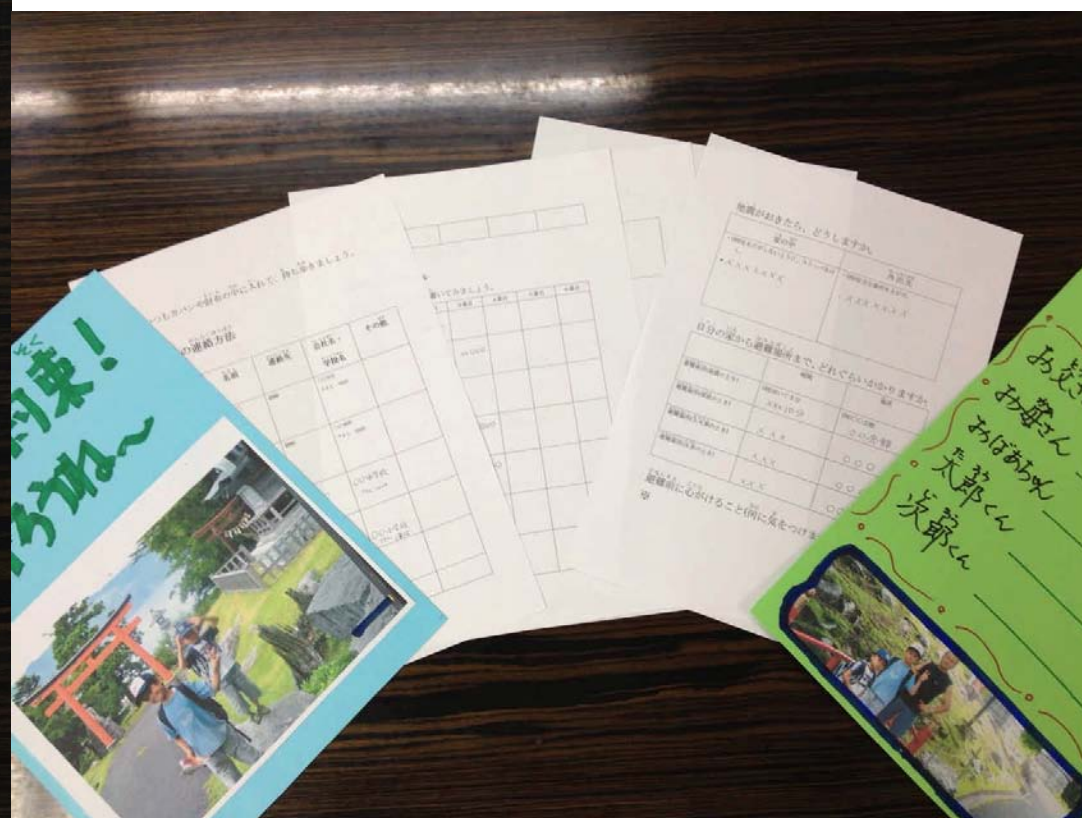
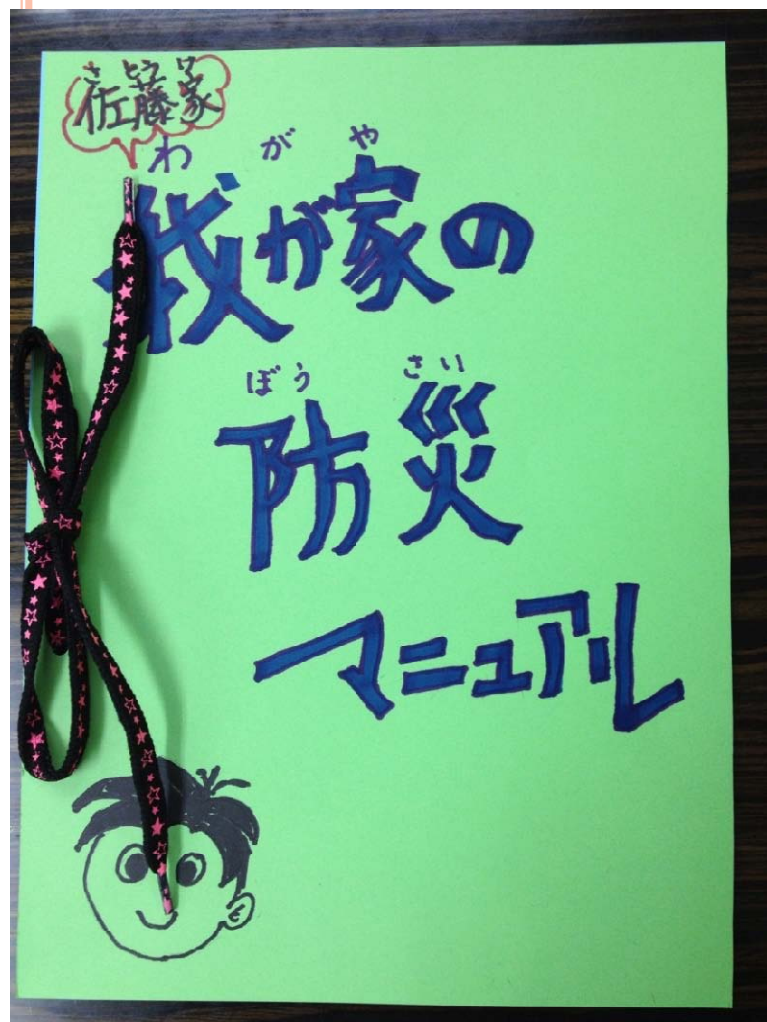
サバイバルポーチ を作ろう

防災ずきんをつくろう



ライフラインが
止まった時の
知恵

3-2.教材で使⽤した写真



3-2. 作成した教材の紹介 (身元確認カードを作ろう)

被災した定住外国人
の経験から、必要性に
基づいて作成した。

みもとかくにん つく
身元確認 カードを作ろう。《にほんご・書きの学習しながら作ってみよう》
※震災のとき、母国の家族と連絡が取れなくて困った方が多かったですね。
あなたの安否《※あんぴ》を心配して大使館に連絡した家族も多かったですね。
もし、あなたが日本でケガをしたり亡くなった場合、だれが母国の家族に連絡してくれますか。

あなたにケガをしたり、
亡くなった場合の身元確認
カードを作しましょう。

みもとかくにん
身元確認カード

名前	性別(男・女)	血液型	型
国籍	母国名	()	
連絡先	住所(日本)		
TEL	連絡先・(母国)		
TEL	住所()		
<MEMO>			

《例》

みもとかくにん
身元確認カード

名前	性別(男・女)	血液型	O型
国籍	中国	母国名	張 広宇(ジャン ホンユウイ)
連絡先	住所(日本)		
TEL	0225-12-4567		
住所(中国)	連絡先	住所(例・兄)	
TEL	86-123-345-6789	続柄(例・兄)	
<MEMO>			
(例)住民番号-88.06.10.222222			

※いつもカバンや財布の中に入れて、持ち歩きましょう。

身元確認カードをつくろう。《にほんご・書きの学習しながらつくってみよう》

※震災の時、母国の家族と連絡が取れなくて困った方が多かったですね。あなたの安否《※あんぴ》を心配して大使館に連絡した家族も多かったですね。もし、あなたが日本でケガをしたり亡くなった場合、誰が母国の家族に連絡してくれますか。

あなたがケガをしたり、亡くなった場合の身元確認カードを作しましょう。

例

身元確認カード

名前 国際 花子

性別(男・女)

血液型 O型

母国名 張 広宇(ジャン ホンユウイ)

国籍 中国

【連絡先】

住所(日本)

TEL 0225-12-4567

住所(中国)
兄)

TEL 86-123-345-6789 続柄(例・

《MEMO》

(例)住民番号-88.06.10.222222

※いつもカバンや財布の中に入れて、持ち歩きましょう

3-3. 学習教材作成についての成果と課題

【成果】

地域の現状に合わせたオリジナル教材を作成し、使用することによって、より防災意識を高める学習内容の授業が実施できた。

【課題】

身元確認カードを持ち歩いていても、今回のような大津波が来た場合、すべてを流されてしまうため、カードの役目が果たせない。

4. 平成24年度文化庁委託事業の成果と課題

【成果と課題】

被災地に住む定住外国人の心のケアと、災害に対応できる日本語能力および生命財産を守るノウハウを学習し防災意識を高める成果があった。一方で、それらは一時的な効果で終わる可能性がある。

【課題解決】

定期的に防災意識を高める活動と震災ストレスを緩和する活動は、今後も長期にわたり支援が必要かと思われる。

5. 現在の取組

現在、地域日本語教育実践プログラムBで、

「復興と共にすすめる日本語教育と多文化共生社会の体制整備事業」を実施中。

取組1 災害ボランティアと地域イベントの参加企画

取組2 日本語教室(防災日本語教室)

取組3 シンポジウムの開催

取組4 日本語交流サロン

ご清聴ありがとうございました。

